

覚で解けるものの、六単語の選択肢問題になると難易度が上がったことが一因と考える。このことから、比較なし学習では知識の習得が不十分だった可能性が示唆される。

なお、学習者の英語力によって効果に差が生じた原因は、本システムでは英文の定義を用いて単語の意味理解を目指したため、ある程度の受容的知識が必要となったからだと考えられる。

5.2 学習の達成度に対する効果

学習達成度に関する主観評価において、「単語の違いを説明できる」という項目に有意差があったことから、本システムはより高い学習目標に到達したという達成感を学習者に与えたと考えられる。本システムでは、学習目標を意識しながら学習することができ、違いを比べやすかったことが理由に挙げられる。また、インタビューの「文脈の比較によって納得しながら学習できた」という意見から、理解しながら学習を進めることができた結果だと考えられる。

なお、「単語の使い分けができる」という項目が有意傾向だったのは、語彙を使用する能力(産出語彙)の習得には長期的繰り返しが必要であるのに対し、今回の学習が約30分という短時間によるものであったことが一因だと考える。したがって、システムの長期利用により、効果がみられる可能性がある。

5.3 学習コンテンツの課題

学習内容が get の場合に、学習方法による効果の差が出なかった原因は、(1)定義に他の学習単語を含む単語があったこと、(2)文定義されていない学習単語があったこと、(3)文脈比較表による分類に偏りがあったことの3点が考えられる。これにより、十分に単語の違いを理解できなかった可能性がある。よって、学習に用いる定義や比較させる文脈特徴の整理方法について再検討が必要である。

5.4 学習単語の組み合わせ方の課題

本システムでは、既によく知る類語と比較することであまりよく知らない単語の文脈特徴がより明確になるのではないかとという仮説のもと、事前テストの結果から理解度により学習単語を組み合わせた。しかし、インタビューの結果、あまり良く知らない類語同士こそ比較したかったという意見が多かった。このことから、学習者個人にとって区別が難しい類語の違いを学習させることが必要であると言える。

本研究では三単語ずつの学習を2回で終了したが、別の組み合わせでも比較学習を繰り返すことが今後の課題である。

6. まとめと今後の課題

本研究では、文脈比較による類語の使い分け学習支援システムを開発し、学習効果を検討した。その結果、学習内容によって差はあったものの、文脈の違いを意識し類語を比較学習させることで、英語力の高い学習者に対して使い分け知識の習得に効果がある可能性が示唆された。

しかし、学習内容によって効果に差が生じたため、引用する定義文や問題文などの学習コンテンツや、文脈の違いを明確にするための分類方法の再検討が必要である。また、学習単語を増やし、学習コンテンツを充実させた上で、システムの長期使用による効果を検討することが今後の課題である。

参考文献

- [1] グローバル人材育成推進会議、『グローバル化人材育成戦略』(2012), <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/1206011matome.pdf> Accessed: 30 Jan.2017
- [2] 文部科学省、『平成26年度 英語教育改善のための英語力調査事業報告』(H26), http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/05/26/1358071_03_2.pdf Accessed: 30 Jan.2017
- [3] Nation, Ian SP. "Teaching & learning vocabulary." (2013)
- [4] Nation, Ian SP. "Learning vocabulary in another language". Ernst Klett Sprachen, (2001)
- [5] Nie, Kaihua. "The Effect of Synonym Relationship Upon the Acquisition of Multi-Dimensional Vocabulary Knowledge." *Studies in Literature and Language*10.2 (2015): 72-79
- [6] 笹尾洋介, et al. "工学英語語彙学習支援システムの開発." 雲雀野: 豊橋技術科学大学人文科学系紀要= The lark hill: bulletin of the School of Humanities, Toyohashi University of Technology 38 (2016): 11-28.
- [7] "TOEIC Proficiency Scale", http://www.toeic.or.jp/library/toeic_data/toeic/pdf/data/pr_oficiency.pdf. Accessed: 30 Jan.2017
- [8] Collins American Thesaurus, <https://www.collinsdictionary.com/dictionary/american-thesaurus/>. Accessed: 30 Jan.2017
- [9] 相澤一美・石川慎一郎・村田年, 『「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく JACET8000 英単語』 桐原書 (2014)